

平成29年度第1回柴田町男女共同参画推進審議会 議事概要

【日 時】

平成29年9月27日（水） 午後3時から午後5時まで

【場 所】

柴田町ふるさと文化伝承館2階 多目的ホール

【出席者】

柴田町男女共同参画推進審議会委員 7名 ※3名欠席
事務局（柴田町まちづくり政策課） 2名

【資 料】

- ①平成29年度男女共同参画推進審議会委員名簿
- ②第4次しばた男女共同参画プランに基づく平成28年度事業実績書及び平成29年度事業計画書
- ③平成29年度男女共同参画推進事業実施計画書

【内 容】

進行：事務局

※審議会は公開とされているため、録音機器で協議を録音したものをもとに議事概要を作成し、町ホームページで公開する旨を説明。

【議 事】

1. 開会

2. あいさつ 会長挨拶

委員の皆さま、御無沙汰しておりました。

今年の夏は長雨で気温が低く体調を崩したり、農作物は実らないといったことがありました。私は在宅看護学概論の授業の中で、フィールドワークをやっておりましたが、今年には福島伊達の仮設住宅にお邪魔いたしました。授業の一環として90名の程の学生を伊達に連れて行きました。そこでは飯館村から避難してきている住民の方たち100名程が生活をしております。そこに東京で放射線看護を専門にしている先生、福島医大の災害看護の先生にご協力いただき放射線の線量の測定を行いました。結果は直ぐには健康被害に至らない数値を測定することができました。しかし、改めてそこに避難してきている住民の方々の悩みを聞くと普通だったらもう孫と一緒に暮らして幼稚園から帰ってくる孫を楽しみに老後を暮らして知る時期なのにそれができない、また、家族と一緒に暮らせるはずなのに、

二つ三つぐらいに分散している状況なんです。若い息子夫婦は関東に、もう一つのやや若い夫婦はこっちの方にと、ひとつの家族が二つなり三つぐらいに分断して暮らしている、そのような現状を見てまいりました。

若い学生たちは自分たちがどんな風にこの人達を支えることができるのだろうかと考えていました。福島出身の学生達の中にも甲状腺の検査を受けている学生がおりますが正常値より高い結果が出ております。ですから自分の将来に対して不安を感じています。

また、帰村宣言がされておりますが、線量が若干高く戻ってもよいものなのか。それ以上にセーフティネット、病院・老人保健施設等の医療・福祉が整っていないので、戻ってもしょうがないんじゃないかと、高齢者は高齢者なりの悩みを抱え、日本の縮図を見たような思いでございました。

本日の審議会は、各所管課からレポートが上ってきておりますので、忌憚のない皆様達のご意見を頂戴したいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議題（審議）

（1）第4次しばた男女共同参画プランに基づく平成28年度事業実績及び平成29年度事業計画について

～事務局から別紙平成28年度事業実績及び平成29年度事業計画について報告、説明～

《会長》

35シートにわたる結構膨大なプランの平成29年度の計画のところまで説明いただきました。委員の皆様には、事前にお手元に届いたかと思いますが、それぞれお目通しをいただいていたかと思いますが、ブロック毎に区切ってお聞きしたほうが良いのかと思いましたが、担当課毎にというのがみえないような気がいたしますので、それぞれの委員の方が評価シートを見て、どんな事をお気づきになられたかどうか個別にお伺いして進めていくということによろしいでしょうか。もしそれに付随して御意見があれば頂戴していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

《委員》

目標値に達しているのが少ないということが、ちょっと寂しいかなと思えました。特に10ページですけど、事業費が1,287千円という金額、多いなと思うのですが、こんなに何に使うのかなと、他は少ない金額もあるが、そんなにどうしてという感じ。策定時が年で50人、全てに対して目標値に達していないというのが現状かなと、またここだけがなぜ金額が多いのかと思う。なぜこんなに差があるのか。

《事務局》

5年間の目標値ということですので、平成28年度が1年目、初年度が終わったということになります。

平成29年度予算の1,287千円ですが、今年度から始まった子育て世代包括支援センター事業で、場所は保健センターで行っています。こちらの運営等にかかるもので、実際、相談等の体制をとるための人件費となります。

《委員》

それなら理解できるが、なぜ目標をこんなに上にとるのかなと感じていた。全てに対して達してないのはなぜかと思っていたので、理解できた。

去年は同じぐらいの予算だったのか。

《事務局》

子育て世代包括支援センター事業は今年度からなので、ここの分の予算的なものはありませんでした。子育て世代を支援していこうということで、今年度の予算で初めて措置したという事業になります。

《委員》

12、13ページで、外部からの人材を持ってきた時にかかっているのは給料なので、それについては疑問を抱かなかった。ただ、平成28年度1人なのにまた同じくこの金額を計上したということに、失敗した事業なのにまたこの金額を計上することに関しては、1名の登録で利用がなかったが、利用がなかったら民間会社だったらカットしますよね。利益にならないから。なのに次にまた56万円を計上したことはどういうことなのかなど。でもそれは5年計画ということで、今のお話で納得しました。

《事務局》

12ページの平成29年度の56万7千円、育児ホームヘルパーの方の要請があった時に町が派遣します、平成28年度は1人の登録はありましたが利用されませんでした。事業費の56万7千円というのはあくまでも予算となります。

《委員》

疑問点なんですけれども、6・7ページにある農政課さんのほうで出しているものなんですけど、他のところだと比較的具体的にどこでやったかとかいつやったかとか記載してあるんだが、啓発に努め情報提供を行ったりとか、集落座談会において情報提供を行ったりとか記載してあるが、いつやったか、何名くらい参加して、どこでやったかとか、何回位やっ

たとかわかりますでしょうか。

《事務局》

毎年2月中旬頃に農政課で各地区を回って、農家の方々との座談会です。平成28年度につきましては、平成29年の2月9日から2月17日に全町21か所で開催し、約200人の参加とのことでした。

《委員》

座談会などに参加してもなかなか登録には至らないのか。

《事務局》

家族経営にしても認定農業者にしても、特に家族経営については世の中的に、家族協定もあるんですが、法人化への移行という流れもあり、家族の中で大きくやるんだったら法人化も手法としてあるのが現状なのかなと思います。認定農業者については、30代、40代、新たに認定農業者になる時には、補助とかのメリットがあるのですが、50代、60代になってからの認定農業では、制度的に補助金的なメリットが少ないということで、担当課では捉えているようです。

農業での女性の進出ですが、本町においてはなかなかそこまでいたっておりません。

《委員》

もうひとつ、35ページ町内企業の取り組み、どういったものなのか。

《事務局》

柴田町工場等連絡協議会という、町内の工場や企業が加盟している団体があります。今までだと女性向けの講座を中心に開催してきたのですが、男女に関わらずそういったいい場がないかなということで模索していたところ、協議会の労務管理部会との共同実施を行うことができました。「イクボス」に関して講演を先週9月22日に工場等連絡協議会の部会と共同で初めて実施しました。講師の先生は仙台のNPO法人ファザーリングジャパン東北所属で、お父さんの育児など、お父さんに目を向けたいろんな講演などやっている団体であります

社員を育成する、育児や介護休暇への理解、社員教育も含めて「イクボス」であり、人材育成は経営戦略のひとつで、人材を育成せずにいたのではもう経営だけでは成り立たない世の中になってきている。良い社員が欲しいのであれば、会社の就業規則も今に合ったものに見直さなければならない等の講演をいただきました。

《委員》

前に言ったことがあるんですがそういうものを開催する時には、私達委員にもお誘いをさせていただきたいと思います。男女共同参画の事業なので。

《委員》

各事業、担当課の方々に、数値目標策定する時にいろいろ努力されているのはわかりますが、例えば11ページの保健師の対応とか、12ページの育児ホームヘルパーさんとか13ページの家庭児童相談員さんとか15ページの家庭生活支援員の方、採用する時にあたっての基準というものがあると思うが採用した後に例えばどの方に相談しても同じレベルで相談できるのか、そういう育成というの、数字を上げるために、目標を上げるために、ぼんぼんと採用するのは簡単ですが、その採用された方が例え資格を持っていたとしても、レベル差はあると思うので、話し方だとか、相談のされ方とか。また相談したいなとかいうふうに印象良くするための教育を各課でやられたらいいと思う。そうすれば0だったのが1になって口コミで良かったとなればどんどん増えていくんじゃないかと。そのペーパーにありますよとかだけではなくて口コミで広がるような努力も各課でされたらいいと思う。そこにはお金が発生するのでそっちのお金もみてあげたらいいのではないかなと思いました。

あともうひとつは予算がやっぱり気になるのだがやはり事務局で、課で何に使われていて、その使われ方は適切なのかというのはちゃんと評価させていただきたいと思います。丸投げはしないと思いますが、そこはちゃんとやったほうがいいのではないかと思います。以上です。

《会長》

予算も、例えば福祉課の障害者相談事業とか結構多い額がついているものがある気がする。あくまでも人件費であって、公明正大なことであるならばそのあたりの情報があると私達が審議するにはしやすいでしょうかね。そこまでいうと膨大な資料になってしまう。

《事務局》

相談事業なので件数や人数なども影響しますが、専門のサポートセンターという民間の事業所に委託をしております。

《委員》

予算のところはいろいろあったとは思いますが事業評価がしやすいようにということからこの様式に変えたということで、平成28年度を見て、やはりいろんなこういった積み重ねというのは3年以上見てみないとたぶん内容的には精査ができないと思いますので、やはりこういったことを積み重ねることによって、次の次世代に繋ぐというスタンスで物

事を進めれば非常に良い物になるのかなというふうに思います。それとこの柴田男女共同参画、審議初めて何年になるんですかね、10年にはなりますかね。そうなるともう既に時代背景が全く変わって来ると思うんですね。10年後には最初審議したものと相当変わるだろうと。というのは、それは自分もこれに関わっていて年齢が毎年高くなってきた時の考え方と環境も非常に変わってきているんですね。そう思うところ、感じるところもあと必要となるものが違って来るんですね。そんな時にこういったきちとした年度毎のシートがあって精査できればまた次の事業内容が新しく構築できるのかなと思いますので5年になったシートは、評価はできるのではないかなと考えています。

予算に関しては、柴田町は予算がそんなにある町ではないと思ってますので、それを無駄使いはできないとは思いますが、そこのところは予算は予算で使わなければ後は残るものなので、良い方向に使ってさえいただければ、良いデータをきちっと見た上で次の審議会の構築のデータとして考えられれば、そしてこれを皆さんがきちっと見られればすごく素晴らしいものになるのかなとは思いました。

《委員》

私はこれを見て本当にご苦労様と、心の底から思いました。ですからこの資料をもらってから35ページ全部読んで、評価がどの程度か、先ほど事務局がやった説明、私がしたいぐらい読みました。それで3つ、今後のことを考えて5年間計画なのですが、直していただきたい所、3つあります。

1つは事業尺度の見直しですね、例えば1ページ、事業尺度がDになっているが企業とか何とかこういう言葉が入ってくるとBなのではないのかなと。あと6ページもかえってBのほうが良いのでないかなと、素人考えですので、もう一回見直して、すばらしいからそのまま行こうではなく、本当にこの尺度で良いのかということをもう一度見直していただきたいと思います。

達成が少ないのは、5年間のうちに期待するのかなと思いました。

2つ目は評価なんですが、私はこの審議会の委員ですので、やはりこれを書いた人の覚悟というのを感じ、文章をきちっと読みました。そうすると、評価できた、○は2、3個しかない。それから目標値に達していない、できない、いたらないとかの表現は、全部×にしました。×、多いですね。うやむやなのは△。文末表現が、「図ります」「検討します」「努めます」「いきます」、どこに行くんだっていう感じですけど。要するに、評価というのはこれだけ立派なものをやったら、自分の課で自分達の評価は×なのか、○なのか、△なのか、シビアに考える必要があると思います。

人材を探すと云ったって、そんな人材どこにもいない、田舎は嫌だから東京に行ってしまうということになりますけどね。それでも人材を探すといっても出来ない事なんですね。でも、達成出来なかったらやはり×なんです。民間企業というのは。だからそこらへん、努めます、果たします、なんて、いつ努めるのかという感じだからもう一回端的に、評価

すべきだと思います。

3つ目です。これが大切。その自分達の評価と平成29年度計画の一貫性のない文章が見られるのが非常に残念です。例えば1ページ、商工観光課、やはり自分達が目標を達成できなかったが、でも計画で具体的にやることを書いてある。こういうのは一貫性があると思いました。それについては、28ページなんかもそうですね。計画になってますよ。3ページ、受講者の年齢が高いと。年齢が高いのは柴田町の人口の変化を見ればわかるんですよ。それをわざわざ高いということを理由にしてできなかったじゃなく、だったら計画には同じ事を書くのではなく、例えば年齢別にジョブカードを作成してやるとか、もっと具体的な計画を書かないとこれ程のものがおざなりになるということが残念なんです。それから11ページ、尺度がDなんです。出来なかった。この計画は、尺度Dで対処できなかったというが平成29年度の計画に「保健師を増員します」ではなくて、他市町村に呼びかけるとか、具体的な計画を出さないで、保健師を増員しますというのは平成28年度と同じではありませんか。増員できなかったらまた平成30年度に増員しますと書くのか。出来なかった解決法をどうするんだという事をもう少し詳しく書いていただかないとせっかくの評価がうまくない。

3つお願いします。事業尺度のそれぞれの見直し。2つ目はシビアに評価してください。3つ目はそのシビアな評価と平成29年度の計画性に一貫性があるかないかという事をもう一度やっていただければ。5年間でやるというのは十分わかるので、それを踏まえても、素晴らしいと思います。だから5年後にやはり出来ましたという表現があったら素晴らしいですよ。他町村にないと思うんですよ。こういうのは。

《会長》

まとめを言っていただきましたけれども、11ページの保健師は私が勤務する大学でも、保健師を養成しているが、去年は受けるのかなと思っていた学生が締め切りに間に合わなかったかなんかでエントリーしなかったというのは、漏れ聞こえているのですが今年はまだ採用終わったんですか。保健師は狭き門なので学生がたくさんいるんですよ。

《委員》

柴田町在住の保健師資格を持っている人達に私もお勧めしたんですけど、よそにお勤めしないと私等食べていけません。と言われて。そこが一番のポイントなんじゃないかな、これには書けないと思うけどそうなんじゃないかなと。他と比べた場合に相当違いがあるんじゃないかなと感じました。

《委員》

尺度についてもうそをついていることになるでしょ。町予算の体制を整えば認めるといふのだから、こういう尺度をシビアに見直してほしい。

《会長》

でも医療職はどうなんですかね。あまり優遇はしていないのですか。

《事務局》

保育士は中級、保健師が上級ということで初級よりは初任給は高く設定しています。町でも実際、専門学校等にも訪問させていただいています。

《会長》

聞いてみます。私就職委員なので。

《事務局》

募集人員に達しなかった場合は、再度募集をする体制をとることになっています。

《会長》

総務課の方が大学の就職課にもおいでになったりもしますよね。松島なんか来ますよ。

《事務局》

柴田町でも学校等に直接訪問させていただいています。

《委員》

例えばこの計画のところにとただ増員ではなくて、例えば定期募集・人事募集を通してなんとかするみたいに書いてもらえば、いつでもやる気があるんだなど。ただ増員しますたっていきなり無理でしょ。だからそこらへんも計画して、今聞いたら違うとわかったので。やはりあらゆる機関をを通して臨時採用、定期採用を試みるとなれば、良い方向に行くのではないのでしょうか。自分達の評価をもう一回振り返って、計画と一貫性があるようにしていただきたい。

《委員》

正直言って委員にすごく素晴らしいポイントを抑えられてしまった感じで。それを聞きながら、なるほどなと思いつつ委員の意見を聞いていました。

できるかできないかということに関しまして私としては、例えば教育の関係、幼稚園とか保育所時代、高校、ここは大学もありますがそういう流れの中で、要するに男女共同参画の基本的な理念というものを勉強する機会、ただこれを見たとお知らせで載せたとか、ある意味じゃ本当に興味のある子供がいればの話だが、そういうのが有効かも知れないが、お知らせとかでやってもなかなか継続性がないんじゃないかなと思う。教育というのは全

での分野で大切なことで、継続性がないと社会に出てそれが身になって、意識の問題もある。ある時大人になってDVのような問題が常に起こってくるというのがそういうところにあるのかなと思う。

ですから、単発的な事というのは、これやった、あれやったで済むが、やはり長い目で、将来的なことまで考えれば、低学年からの要するに継続した教育が大人になってからのいろんな社会問題を抑える効果が結構あるのではないかと思います。ですからそういうふうな考え方も今後の共同参画の考え方のひとつとして、各部署がこれやった、あれやっただけではなく、単年度ではなく連続した指導・勉強が出来ればいいのかと思う。

《会長》

23ページの福祉課の「地域包括支援センターの介護等の相談件数」とか27ページの柴田町社会福祉協議会の「日常生活における総合的な相談機能の充実」というふうなことで載ってきていますが、私は看護の人間ですから地域包括支援センターの仕事をとっても重要になってきている。中学校区で、地域で起こっているいろんな諸問題、高齢者の虐待とか、障害者に対する問題、老々介護のこととか、全て住み慣れた地域で最期まで暮らすというのが厚労省のスローガンです。それで地域包括支援センターでやることってもっとあるのではないかと思います。逆に介護等の相談だけでなく、住民の意識を変えていかなければいけないということが大きな課題なのではと思う。このようにヘルプの手を差し伸べることを提案するのではなく、住民自身が自助努力をしなければなりませんよね。福祉の原則で、自助・互助・共助・公助というふうな4つのプロセスがあるが、その中で自助、お互いが回覧板を回しに行きながら、顔の見える関係で、何が出来るだろうかという勉強会的な働きかけも必要なのではとちょっと考えている。例えば、今朝もJアラートで地震速報がありました。うちは娘が持っている携帯は鳴るし、私の携帯はなるし、夫の携帯は鳴るしもうにぎやかでした。そういった身近なところで自分で自分の身を守らなければならない、という時もありますよね。防空頭巾を人から被せてもらうのではなく、車椅子の障害を持った人でさえも、自分の防空頭巾は自分で被るとか、という気構えはあるのだろうかとかそういったところを問われているので何か良さを付け加えて、女性達はこういった危機管理はとっても上手だと思う。議員さんたちと条例作りをする時に、民生委員の方達と御一緒させていただいたが、とってもなんか自分の人生をかけて町のために尽くしてらっしゃるのを見ることが出来ました。ほんとにきめ細やかに女性の発想というのは、隣三軒両隣りというか、ああいったところでの勉強会なり、もう少しこれはこうしたら良いじゃないとか、そういった意図的な計画書が上がってくるといいと思います。それともうちょっと予算を付けてあげると、女性達は上手にいろんなことを自主的にやってくれるんじゃないかな。というのを感じておりますが。地域包括支援センターとかはどうなのでしょうか。

《事務局》

町内には船岡に1つ、槻木に1つと2か所あり、2つの地域包括支援センターは、町から法人に委託し、運営していただいております。

同じ状況や悩みを持った方々が集まれるような事業も実施しております。

《会長》

レスパイトケアですね。

《事務局》

柴田町では、地域包括支援センターの方々がその地域に出向いたり、様々な事業も実施しております。本町の特色は、ダンベル体操サークルが各地区にあることだと思います。こういったことが介護予防になっているものと考えます。

《会長》

今おっしゃったような評価の尺度が出てくると、またわかりやすいですね。ちょっと面白くないというのが感じられました。あともうひとつ聞いたかったのが、例えば14ページの子ども家庭課で小規模保育ですが、私は子育てで無認可の保育園なんかを使った手前上、講習を受けたにもかかわらず、勧誘を行いますとか、確保には至らなかったというのは、願ひする方が現れなかったのか、自分でやりますよという決意に至らなかったということですか。

《事務局》

こちらのほうは、実施できるところまではいかなかったようです。平成29年度に事業費は、5,300万円程の事業費を計上しています。小規模保育事業の設置事業者に対しての補助になります。

《会長》

一事業所はおいくら助成金をもらえるのですか。

《事務局》

今回は一事業所で、5,300万円。運営する事業者さんが、施設整備費用で、土地と建物の費用の補助ということになります。

《会長》

小規模保育事業は何人定員なんですか。

《事務局》

6人から19名です。

《会長》

すごい大きいことですよね。保育所がないと女性達も働けないですよね。

きちんとターゲットを絞ってちゃんとそこをお願いしていかないと、ふわーと誰かやりませんかでは、決まらないですよね。でもそういうのがひとつでも達成できたというのは非常に良かったのかなと思いました。

《委員》

1ページの「女性社員キャリアアップ研修会」ですが、平成29年2月14日、15日実施して会社の女性社員が受けたとありますが、町外の人が7名で町内が北日本電線の1名というのはどういうことかなと。せっかく柴田町でするのであれば町内の企業ができるだけ参加するようにしてはいかがでしょうか。

《事務局》

ここの仙南地域職業訓練センターというのが柴田町のものだけではなく、周りの関連市町村で運営しているセンターでありまして、その中の1つの項目としての女性社員キャリアアップ研修であります。町内では、結果的には1社、1名でしたが、柴田町に施設もありますし、通い易いというのもあるので、もう少し力を入れてやってもらうところなのかなと考えます。

(2) 平成29年度男女共同参画推進事業について

～事務局から別紙平成29年度男女共同参画推進事業について説明～

《会長》

前回参加した方はお知らせを配布する時、連絡先などは把握して声がけするのですね。定員は何名なのでしょう。また広報紙をもっとこうばら撒いたほうが良いとか、委員から御意見などありませんか。

《事務局》

定員は、20名です。

《会長》

去年は何名参加されましたか。

《事務局》

12名でした。3テーブルでワークショップを行いました。

《委員》

今回は去年の名簿を元に集中的に出して、お友達連れてきてくださいよみたいな感じで、ただばら撒くのではなく、やはり一点集中主義にしてやったほうが良いと思います。

《事務局》

代表の方々などに、ダイレクトにお願いしつつ、町の広報誌も利用して広く募集も行います。

《委員》

やはり、声が出たんですか。してみたいとか。

《事務局》

昨年、講座を実施しまして、委員さんからもシリーズでやったらというお話もありました。参加者もその後に先生と交流していると聞いておりました。参加したママたちが、いろんなことをやりたいということで、昨年度の先生にお願いしました。

《委員》

せっかくなので1回じゃなくて、1年のうちに3回くらいの講座で継続化するためには根付かせるには1回きりじゃなくて1年のうちに3回それも年間スケジュールを立てて、来たい人はもうわかっているんで、年間スケジュールがわかっているとそこを空けておこうとするんですね。なので年に3回くらいやっていただくとママ達の輪も広がると思います。やはりマッチング、コラボというか、じゃ誰ができるのかなと思った時にそこは行政じゃないと難しいのかなと思った。なのでそういう人材がいた時に登録できるようなシステムというのがあると、何か行事をやる時にいろんな広がりができるんじゃないかな、とその時ちょっと思ったんです。それはたぶん個人では無理なので、やはりいろんなハードルがあるので、ある程度行政が舵取りをしていただいて、そういったママカフェやる時も、同じママでインストラクターやってる方が子供をみててくれているとか、そうするとお互いウィンウィンでね自分の能力を発揮できて、補完し合える間柄であるという形態を作ることのほうがお金の予算を付けて、どんどんやらせるというよりは、やはり人というのは生きがいのところにすごく自分を見出しますよね。いきたくなるし、そのが楽しいとなる

と継続性が出るので、そういう仕組み作りをあんまりお金をかけずに、特に女の人は自分をいかしてくれる場所があると思うとほんとに良く働くんですよ。でもそれが無いとやはりちょっと違う方向になってしまうのでね。なにも予算付けてお金をいっぱい出せば良いではないので、うまく補完しあえる間柄をこの柴田町内でそんな大きくなくても良いから、小さいワークショップみたいなので、私仕事をした時、ユニット形式と言うんですが、この仕事にはこの人とこの人とこの人で進める、この仕事に対してはこの人とこの人この人というふうにするような形で、やはりうまくマッチングできて登録するシステムがあったら、たぶん人材発掘の機会に試せるんじゃないかなというふうには考えるのですが。そのところももうちょっと、たぶん若い女子社員、役場は職員さんいらっしゃると思うので、たぶんそういった発想であると若い人もついて来ます。リーダーになるのもやはり若い女性であるとますます同世代で、こうやりたくなる同士っていう・・・。この頃私はジェネレーションギャップをすごく感じていて、昨日もあー参るなーと思うことが多々あるので、ほんとこれはおばちゃんじゃだめだなというのは。後方支援はほんとうにできるけど、実質私やりたい事を今やるよっていうのでは、もう無理がある年齢なんだと昨日実感したのでね。やはり若い人は若い人同士で見出して、それを支えるのが周りの大人だっていうそういう意識を私達も持たないといけないなというのはもう一度感じました。

《事務局》

町内では、団体サークルを作ったものに関しては、ビッグというイオンありますよね、上名生の方に、「ゆるぷら」というまちづくり推進センターで、団体登録というものを行っています。せんだい・みやぎ NPO センターの支援を受けながら、地域の活動団体を訪問し、登録を増やしていけるよう取り組んでいるところです。

《委員》

趣味でやる方がたくさんいて、私もこの間ゆるぷらで顔を出して、どんなにやってらっしゃる方がいて、それが全て趣味で終わっているところに問題があるのであって、人材育成というのを前面に出しているのであれば、その人を高めるにはやはり、古いカタチですが行政とかのそういうスタンス、ちょっとね協賛、柴田町何とかなんて書いてあっても、バックアップを町でやってるといふものがあると、結構人間というのはそういうのに惹かれて来る事もあるんです。しかもそれもおらんとこレベルでやってるといふ感じになるので、オンラインで年間登録したかったら、協賛、そういうようなワンテンポ上のサークル活動にしていかないと、趣味の域に終わってしまうなかなと、とにかく、あの、ゆるぷらに行くたびびっくりするの。ただそれを飾ってる、私もそうだが、自己満足、それを広げようという気はないんですね。こう固定的に、一段上に立ってみんなを引っ張って行って、まちづくりにというところまでは、なかなか、責任もあることだし。

《会長》

でもボランティアに発展させると言ってましたよね。

《委員》

やはり形のあるものに残して行って、そこで人材を育てないとボランティアもいつか消えると。

《会長》

ひとつづくり、ヒューマンマネジメントといわれてますよね。

《委員》

やはり女性であれ男性であれ、仕事をするというかね、何かに関わる時は、責任を持ってやらないといけないと考えます。どうしても趣味の域というのは、無責任になってしまう。それが結局は人材育成には繋がらないということなのだと思うんです。人材育成するということは、そういうことも含めて。

《会長》

そういったことも徐々にということですね。でも時間がかかりますよね。

《委員》

去年やって良ければ、ぜひ1年のうち1回じゃもったいないのでせめてもう1回くらいしていただくと。

《委員》

まちづくり推進センターは、中を改装したらきれいになって広くなった雰囲気受けるので、あれ良かったからあそこをきれいな喫茶店みたいにしてコーヒー飲みながらなかなか良いですよ。もうちょっと田舎くさかったもの。いつの間にか人が寄って何かしてるんですよ。

《会長》

若い人は、カフェみたいな雰囲気好きですよ。

《委員》

環境とか場所を与えると、みんな来るんだなど。

《事務局》

NPOセンターの先生と町のスタッフが頭を悩めて何ヶ月もかかってこのレイアウトにしたんです。入り易くリラックスできる状況です。

《委員》

この企画で例えば若い人達を育てようという雰囲気、私達が出来事としてスポンサーになってお茶を出すとか、そういうことは町としては許容できますか。町がやるんでしようけれど、例えば町のちょっとしたパン屋さんであったり、事業主であったり、少しずつそういう人を応援しましょうという人もいます。そうであれば町としてはそういう枠作りをしていただいて、そういうふうな気持ちのある人を、ちょっとお茶を出してあげるとかちょっとしたおやつを出してあげるとか、おばさんの役割はそういうことかなと思っているので、そういうところも、もしいいのであればそういう人達を募って、なるべくまちづくりに少しでも協力したいなという気持ちはあるので、もしいいのであれば、そういう方にお声掛けとかさせていただきます。

3. その他

名簿について、公募委員には「公募」と記載する。

4. 閉会あいさつ

ほんとお忙しい時間のなか長時間にわたり、審議ができてどうもありがとうございました。また次回は年度中にはあると思いますが、その時も自分も皆さんの忌憚ないご意見を拝借したいと思いますのでよろしくお願い致します。今日はどうもお疲れ様でした。